

---

# 2003年3月期 第3四半期 決算説明資料

スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社

---



2003年2月25日

***SPARX Asset Management Co., Ltd.***

## 目次

- . 2003年3月期 第3四半期決算 P.3 ~ 9
- . 預かり資産について P.10 ~ 15
- . 当社のビジネスについて P.16 ~ 19
- . 参考 P.20



## 損益比較

|                  | 2002年3月期<br>第3四半期 | 2003年3月期<br>第3四半期 | 前年同期比<br>増減(%) | 2002年3月期 |
|------------------|-------------------|-------------------|----------------|----------|
| 預かり資産平均残高 (億円)   | 2,507             | 3,852             | 53.6%          | 2,660    |
| 営業収益 (百万円)       | 3,607             | 3,790             | 5.1%           | 4,805    |
| 営業費用・一般管理費 (百万円) | 2,213             | 2,984             | 34.9%          | 3,042    |
| 営業利益 (百万円)       | 1,394             | 805               | 42.2%          | 1,763    |
| 経常利益 (百万円)       | 1,348             | 797               | 40.8%          | 1,727    |
| 当期純利益 (百万円)      | 708               | 457               | 35.4%          | 882      |

(注1)上記表中の数値は、単位未満を切捨てて表示している。

(注2)預かり資産平均残高については、2002年3月期第3四半期の預かり平均残高は、2001年4月～12月の平均残高を、2003年3月期第3四半期の預かり平均残高は、2002年4月～12月の平均残高を、2002年3月期の預かり平均残高は、2001年4月～2002年3月の平均残高を、それぞれ表示している。

## 2003年3月期 第3四半期 決算概要

### ▶ 預かり資産の伸び

- ・国内外共に、経済の先行き不透明感が漂う中、依然、株式市場では厳しい相場環境が続いており、当第3四半期末の日経平均終値は、8,578円95銭と、前期末比22.2%、前年同期末比で18.6%の下落を示現している。
- ・預かり資産の平均残高は、軟調に推移する株式市場の影響を受けつつも、第3四半期で3,852億円（前年同期比53.6%増）と着実に増加している。

### ▶ 投資顧問業務（一任、助言）

- ・預かり資産残高 2,615億円（前期末比2.8%減、前年同期末比7.6%増）  
：投資一任契約 6件純増（3四半期ベース）

### ▶ 投資信託委託業務

- ・預かり資産残高 1,141億円（前期末比70.9%増、前年同期末比134.0%増）  
：スパークス証券（株）を中心に販売する国内私募投資信託の残高が増加。また、日興コーディアル証券（株）で販売されているロング・ショート型の国内公募投資信託の残高が、投資信託委託業務における預かり資産残高の増加に大きく寄与している。

（注1）以下、預かり資産の残高については、時価純資産額であり、表示単位未満は切捨てで表示している。また、当該金額は、基準日時点で実際の運用に係る金額のみではなく、コミットメント・ベース等により契約上運用報酬の算定の対象となる金額がある場合は、これを含め表示している。  
尚、上記数値は、億円未満について切捨てで表示。

（注2）また上記投資顧問契約件数は、社内管理資料に基づくものであり、法的な契約件数とは異なる

## 営業収益 -前年同期比-

| 営業収益<br>(単位:百万円) | 2002年3月期<br>第3四半期 | 2003年3月期<br>第3四半期 | 前年同期比<br>増減 |
|------------------|-------------------|-------------------|-------------|
| 投信・投資顧問料         | 3,272             | 3,676             | 12.3%       |
| 内残高報酬            | 2,326             | 3,382             | 45.4%       |
| 内成功報酬            | 945               | 294               | 68.9%       |
| 受入手数料等           | 335               | 114               | 65.9%       |
| <b>合計</b>        | <b>3,607</b>      | <b>3,790</b>      | <b>5.1%</b> |

- ➡ 残高報酬分；  
残高報酬は、預かり資産平均残高が、当第3四半期間中（4月～12月）、3,800億円台を維持しており、33億82百万円を計上、前年同期比で45.4%の増収となった。
- ➡ 成功報酬分；  
成功報酬は、厳しい相場環境の中、2億94百万円を計上したが、前年同期比では、68.9%の減収となっている。
- ➡ 営業収益ベースでは、預かり資産の着実な増加に伴い、残高報酬部分の収益の増加が、成功報酬部分の減収を補い、結果、営業収益全体として、37億90百万円（対前年同期比+5.1%）となった。

(注)上記表上の数値は、単位未満を切捨てて表示している。

## 営業費用・一般管理費 -対前年同期比-

| 経費項目<br>(単位:百万円) | 2002年3月期<br>第3四半期 | 2003年3月期<br>第3四半期 | 前年同期比<br>増減  |
|------------------|-------------------|-------------------|--------------|
| 営業費用             |                   |                   |              |
| 支払手数料            | 408               | 628               | 53.8%        |
| その他営業費用          | 135               | 198               | 46.7%        |
| 小計               | 543               | 827               | 52.1%        |
| 一般管理費            |                   |                   |              |
| 給料等(給与・賞与他)      | 1,006             | 1,189             | 18.2%        |
| その他一般管理費         | 662               | 968               | 46.2%        |
| 小計               | 1,669             | 2,157             | 29.2%        |
| <b>合計</b>        | <b>2,213</b>      | <b>2,984</b>      | <b>34.9%</b> |

- ➡ 営業費用；  
主に投資信託の残高増加に伴い、販売会社に支払う支払手数料、及び委託計算費が増加した結果、営業費用は8億27百万円（前年同期比52.1%増）となった。
- ➡ 一般管理費；  
業容拡大に伴う職員増加による人件費の増加。オフィス・スペースの拡張、及びニューヨーク・オフィス開設に伴う不動産賃借料の増加、並びに事務委託費の増加等により、一般管理費は21億57百万円（前年同期比29.2%増）となった。
- ➡ 営業費用、一般管理費を併せ、計29億84百万円（前年同期比34.9%増）となった。

(注)上記表上の数値は、単位未満を切捨てて表示している。

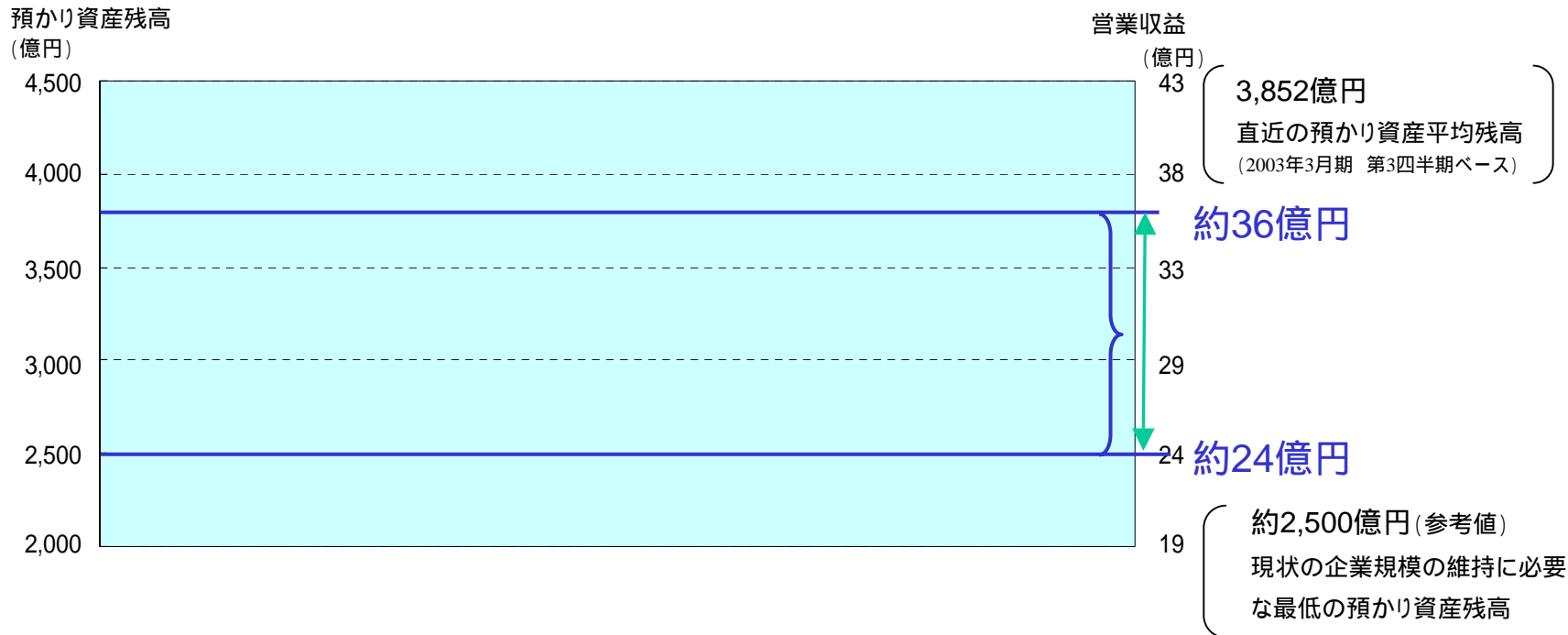
## 営業費用・一般管理費 -前年同期内訳比較-

| (単位:百万円)       | 2002年3月期<br>第3四半期 | 2003年3月期<br>第3四半期 | 増減         |
|----------------|-------------------|-------------------|------------|
| <b>営業費用</b>    |                   |                   |            |
| 支払手数料          | 408               | 628               | 219        |
| 委託計算費          | 39                | 73                | 34         |
| その他            | 95                | 125               | 29         |
| <b>営業費用合計</b>  | <b>543</b>        | <b>827</b>        | <b>283</b> |
| <b>一般管理費</b>   |                   |                   |            |
| 人件費等           | 1,006             | 1,189             | 183        |
| 事務委託費          | 108               | 156               | 48         |
| 不動産賃貸料         | 132               | 213               | 81         |
| その他            | 422               | 598               | 176        |
| <b>一般管理費合計</b> | <b>1,669</b>      | <b>2,157</b>      | <b>488</b> |

(注1)上記表上の数値は、単位未満を切捨てて表示している。

(注2)上記表は、営業費用、一般管理費の項目を要約したものであり、簡便的に記載している。

# 預かり資産残高と収益基盤の安定性

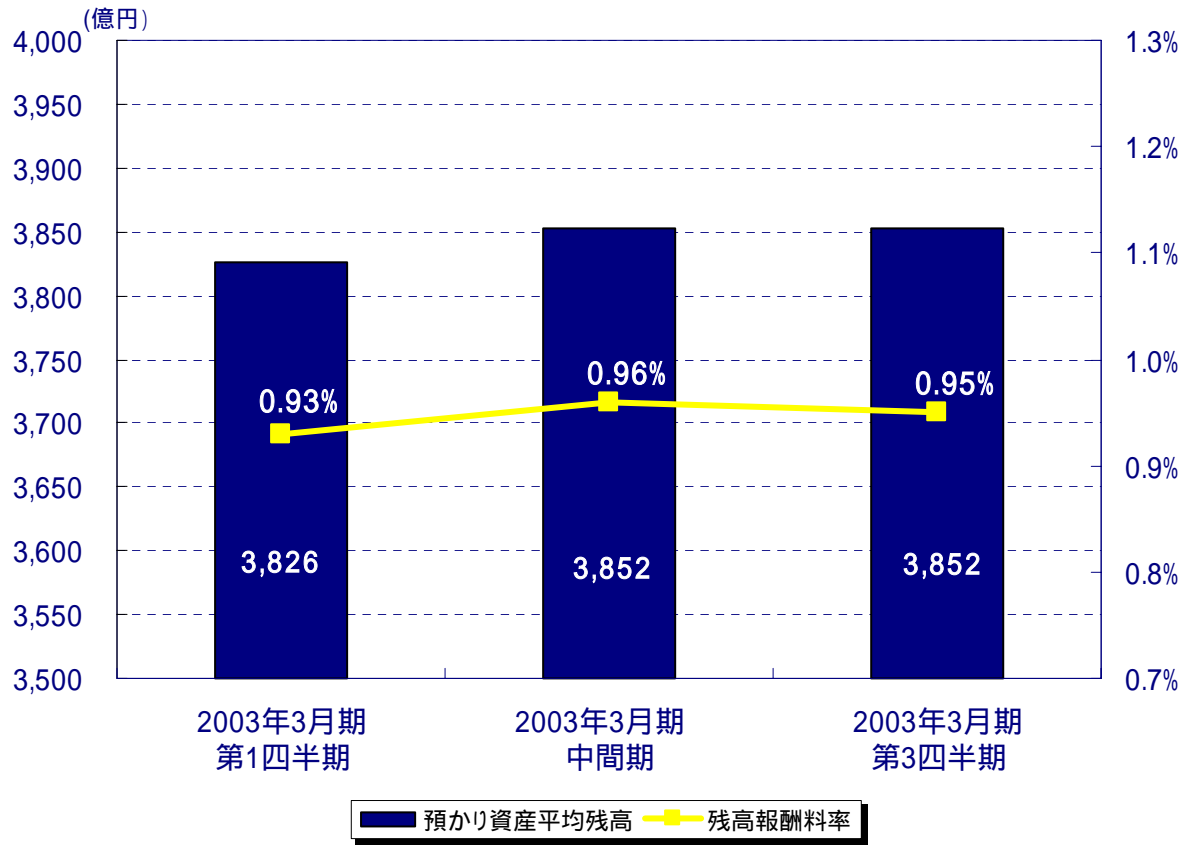


残高報酬料率 0.95%、収益源は残高報酬のみで成功報酬及び受入手数料等、その他収益がないことを前提として

- ➡ 営業費用・一般管理費から、変動費と見なせる実績賞与、支払手数料、その他を控除した経費をベースに、年間の固定的な経費は約24億円と仮定する。
- ➡ 当該経費部分をカバーするのに必要な預かり資産の年間平均残高は、約2,500億円。

(注) ここで記載している年間の固定的な経費とは、第3四半期で固定的な経費と仮定した数値を年間ベースに割戻したものであり、年間経費を予測するものではない。

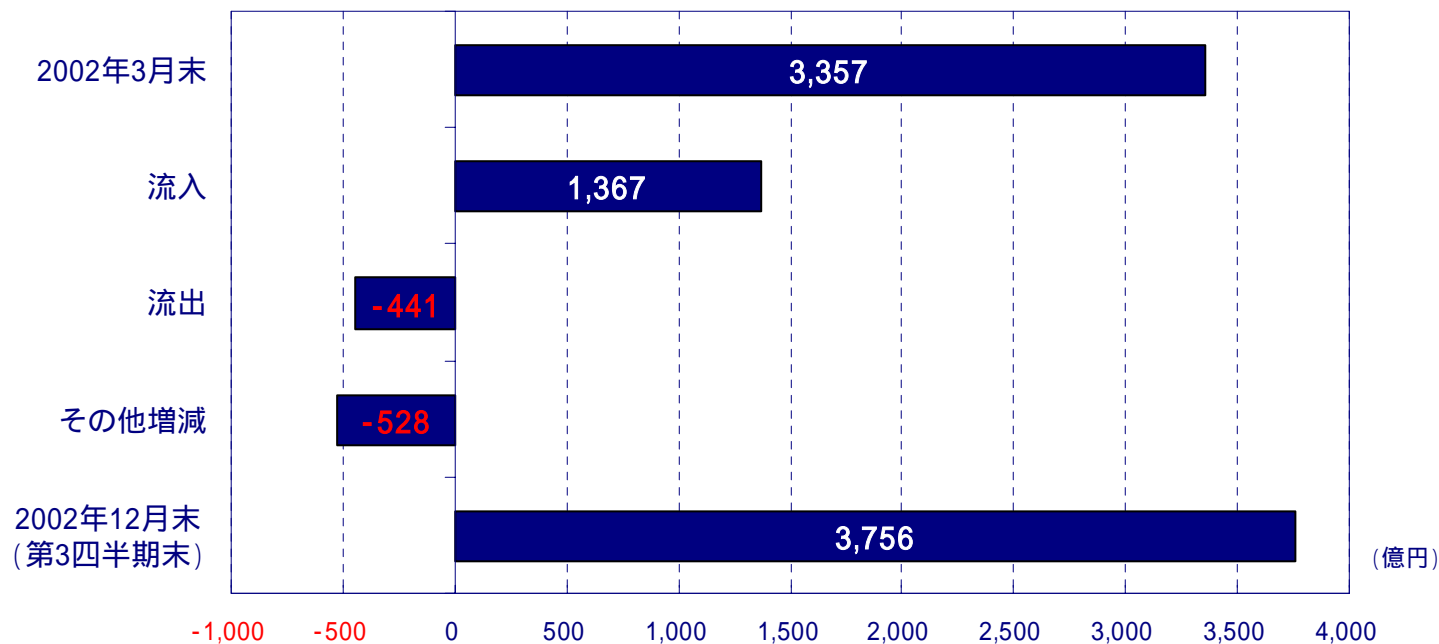
# 残高報酬料率（ネットベース） - 過去料率推移 -



➡ 第1四半期は、相対的に報酬料率の低いファンドの残高増加の影響を受けて、報酬料率が微減。当第3四半期期間中（4月～12月）の料率の動向を見ると、残高報酬料率は一定の水準を維持しつつ推移している。

(注1) ここに表示している残高報酬料率とは、当社預かり資産の全てのファンド、口座の料率を加重平均して算出した概算値である。  
 (注2) 残高報酬料率の「ネットベース」とは、残高報酬から支払手数料の内、残高報酬にかかわる部分を差し引いた、正味手取の報酬を基に算出している。  
 (注3) 第1四半期の料率は、2002年4月～6月の預かり資産平均残高を、中間期は2002年4月～9月の預かり資産平均残高を、第3四半期は2002年4月～12月の預かり資産平均残高を基に算出している。

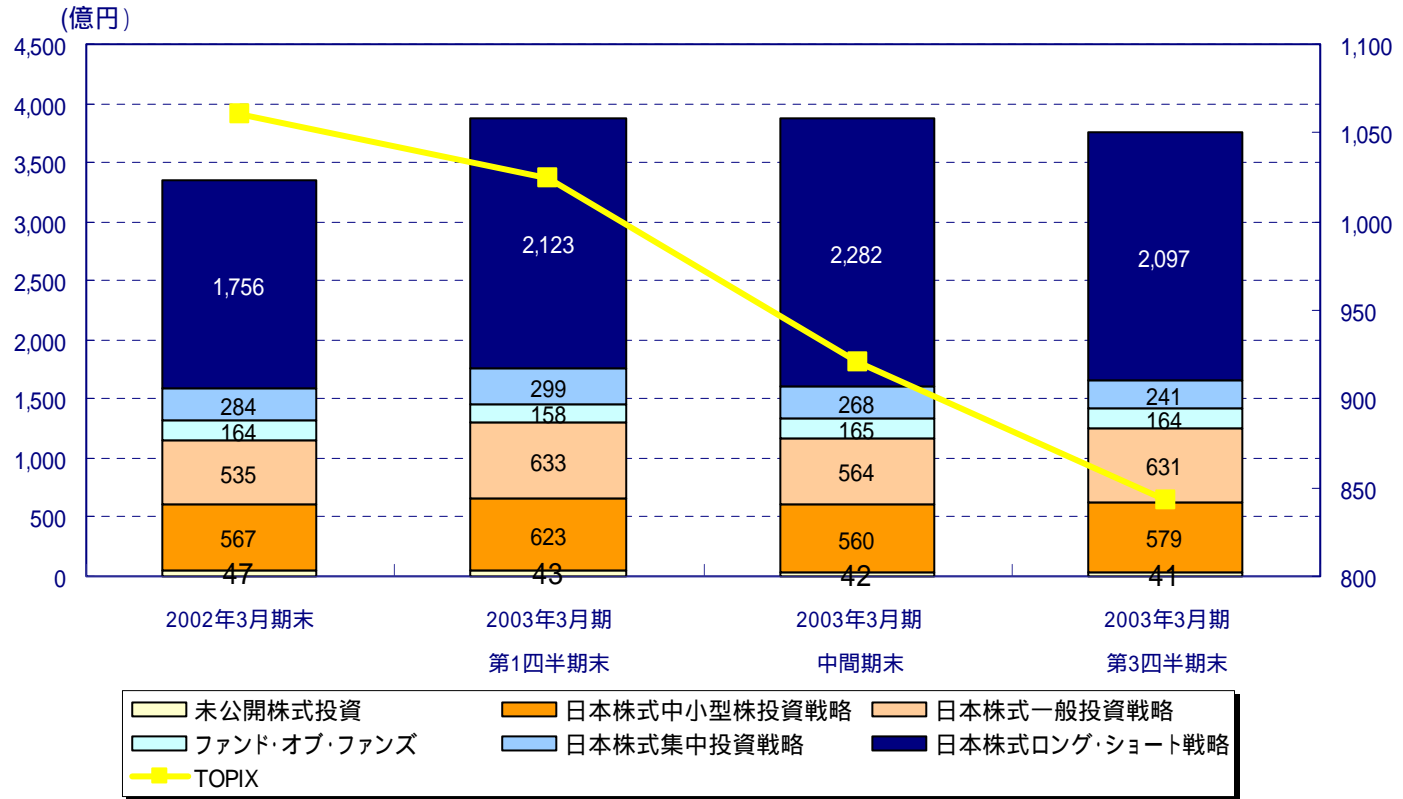
## 資金流出入



| ストラテジー別            | 2002年3月末     | 2002年12月末    | 増減         |
|--------------------|--------------|--------------|------------|
| 日本株式ロング・ショート戦略     | 1,756        | 2,097        | 340        |
| 日本株式集中投資戦略         | 284          | 241          | 42         |
| ファンド・オブ・ファンズ       | 164          | 164          | 0          |
| 日本株式一般投資戦略         | 535          | 631          | 95         |
| 日本株式中小型株投資戦略       | 567          | 579          | 12         |
| 未公開株式投資            | 47           | 41           | 6          |
| <b>合計 (単位: 億円)</b> | <b>3,357</b> | <b>3,756</b> | <b>399</b> |

(注) 上記表上の数値は、単位未満を切捨てて表示している。

# 預かり資産分析 - ストラテジー別 -

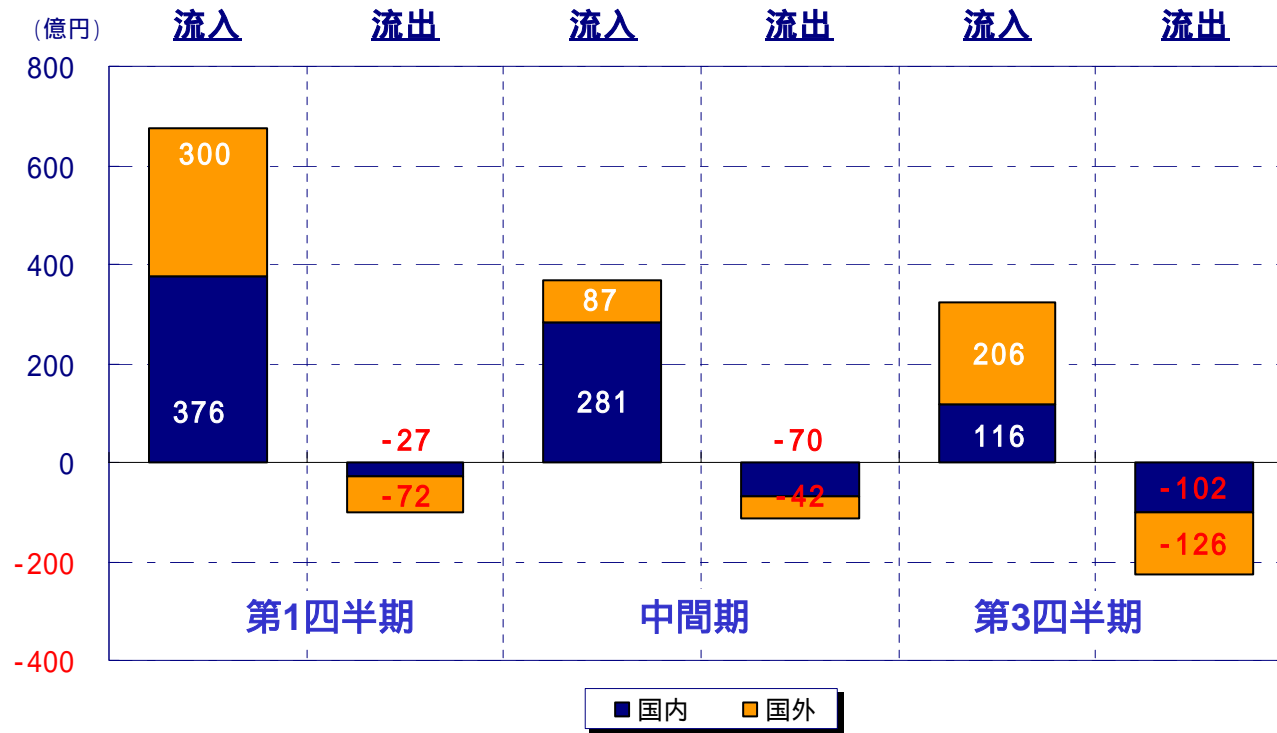


➡ 日本株式ロング・ショート戦略の預かり資産の伸びが、前期末からの当社の預かり資産残高の増加に大きく寄与した。また、6月以降、相場の変動局面にあって、日本株式一般投資戦略、及び日本株式中小型株投資戦略の預かり資産への資金流入も見られ、預かり資産残高を底支えしている。

(注1) 上記表上の数値は、各月末の数値であり、億円未満を切捨てて表示している。

(注2) TOPIX指数は、各四半期末の数値を表示している。

# 資金流出入 - 国内・国外別 -

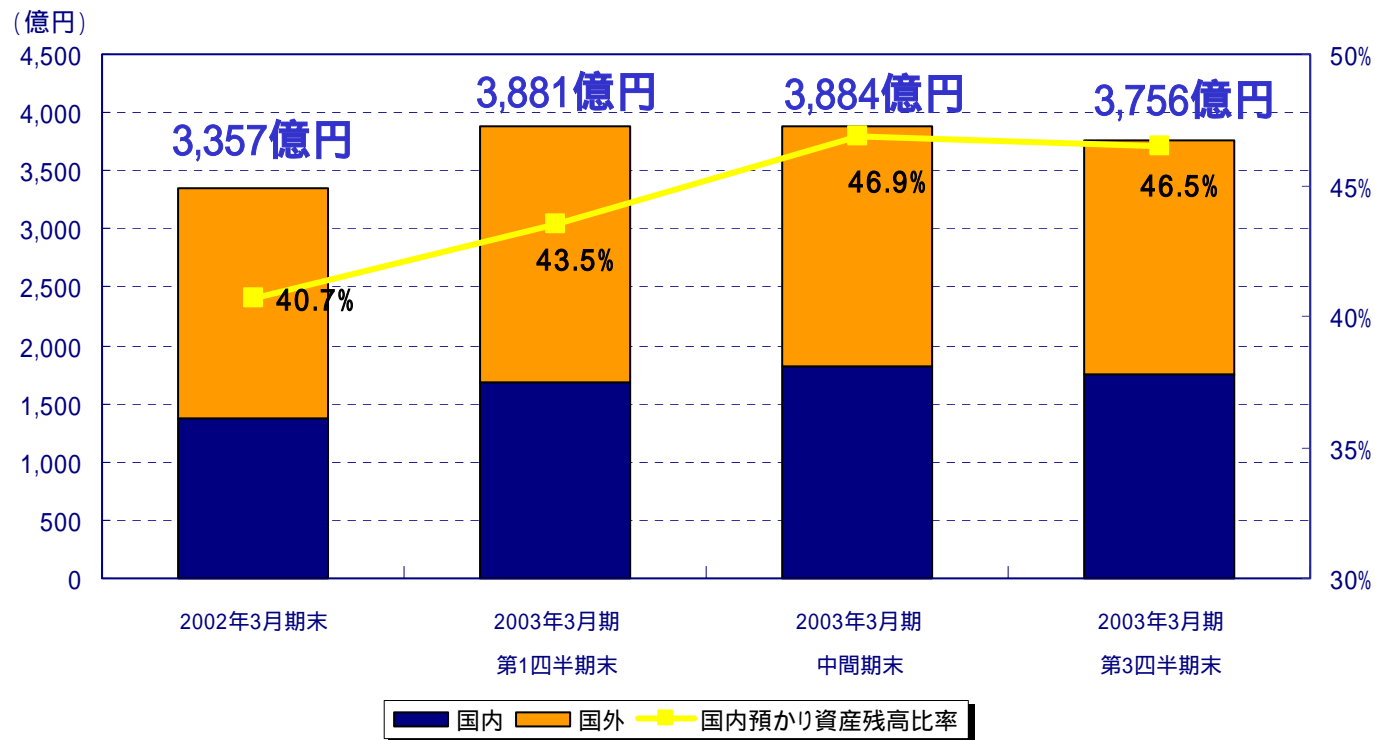


➡ 本年度は、第1四半期から第3四半期までの期中を通じて、資金流入超の状況が続いている。第3四半期の資金の流出入を見ると、主に既存のファンド、口座における資金の流出入の動きによるものであり、国内・国外で、特に偏った資金の動きは見られなかった。

(注1)上記の「国内・国外」とは、社内データ及び当社資料による、「最終顧客の属性」に基づく区別であり、その属性の正確性を保証するものではない。

(注2)上記表上の数値は、第1四半期、中間期、第3四半期中の「国内・国外」各々の資金流出入の金額であり、単位未満を切捨てて表示している。

## 預かり資産分析 - 国内預かり資産残高比率（顧客属性ベース） -

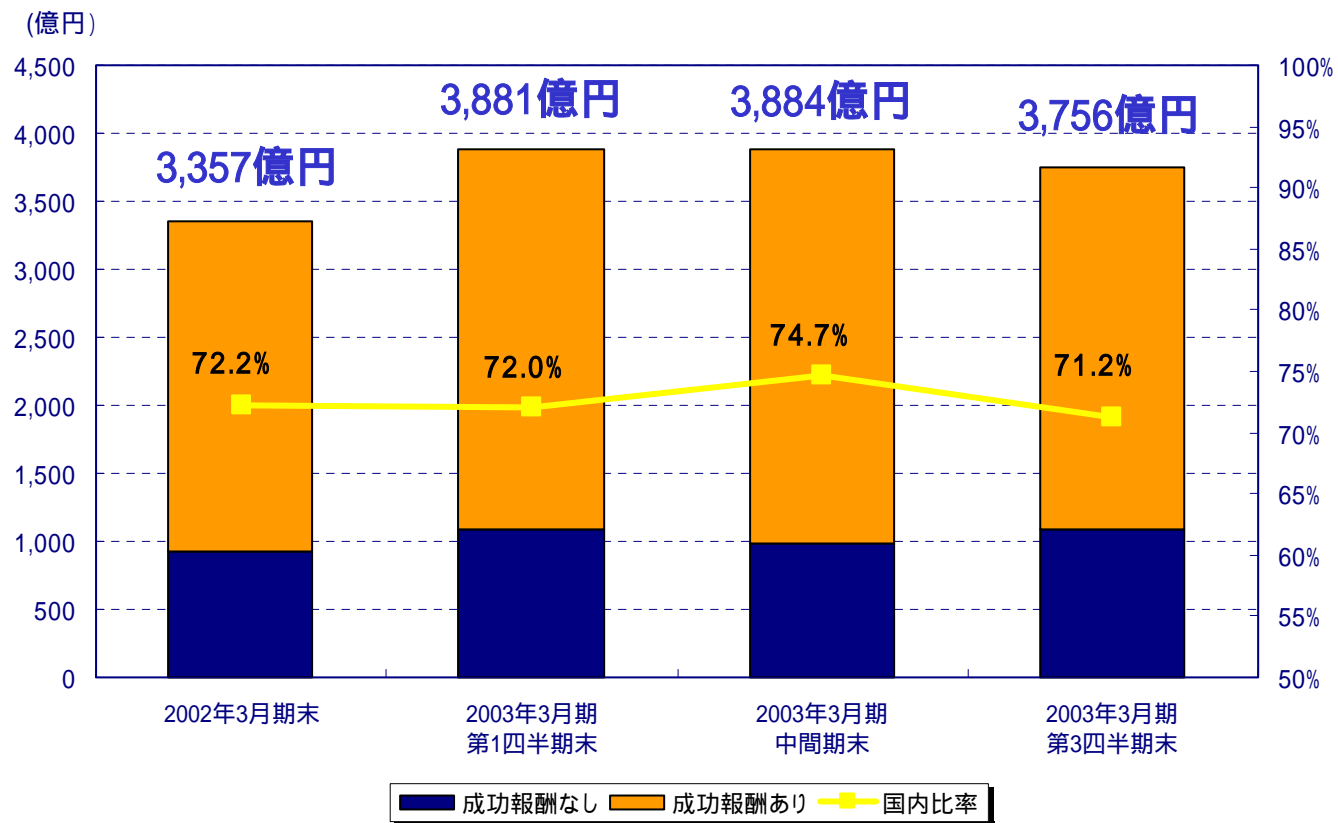


- ➡ 第3四半期末の預かり資産残高の国内預かり資産残高比率は、中間期末とほぼ同じ比率であり、国内・国外の預かり資産残高は、一定のバランスを保ちつつ推移している。

(注1)上記の「国内・国外」とは、社内データ及び当社資料による、「最終顧客の属性」に基づく区別であり、その属性の正確性を保証するものではない。

(注2)上記表上の数値は、各四半期末の数値であり、単位未満を切捨てて表示している。

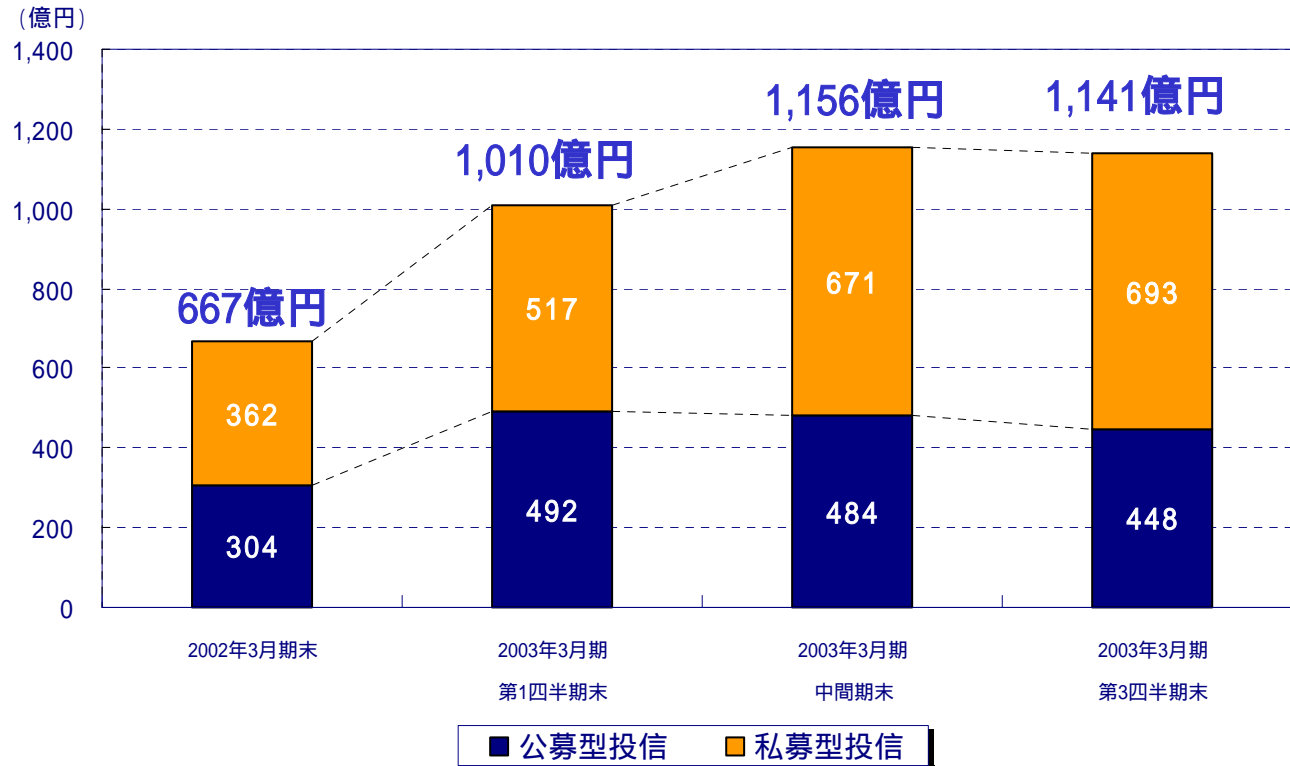
## 預かり資産分析 - 成功報酬付きファンドの比率推移 -



- ➡ 第3四半期に入って、日本株式ロング・ショート投資戦略の預かり資産が微減したことに伴い、成功報酬付きファンドの比率も若干の減少に繋がっている。

(注) 上記表上の数値は、各四半期末の数値であり、単位未満を切捨てて表示している。

## 預かり資産分析 - 投資信託委託業務について -



- 国内公募型投資信託については、主に日本株式ロング・ショート戦略以外の投資信託の残高が減少しており、第3四半期に関して、若干の伸びが悩みが見られる。一方、国内私募型投資信託は、主にスパークス証券を通じた販売分の残高の増加に支えられ、前期末比で、着実に残高を増加している。

(注) 上記表上の数値は、各四半期末の数値であり、単位未満を切捨てて表示している。

## - バリュース・クリエーション投資戦略について(1/3) -

- ➡ **スパークス・ジャパン・バリュース・クリエーション・ファンドの開始について**  
- (正式名称：SPARX JAPAN VALUE CREATION FUND, L.P.) -

カルパース (CalPERS：カリフォルニア州公務員退職年金基金)、リレーショナル (Relational Investors, LLC) 及び当社グループは、コーポレート・ガバナンスを軸として、日本企業の価値創造を促すことを目的とした投資ファンドを組成。本バリュース・クリエーション投資を行うに際し、関係する契約を取り交わし、本年1月22日 (米国時間) に正式に調印の運びとなった。

### ▶ **運用管理会社の設立 (正式名称：SPARX VALUE GP, LLC)**

本投資を開始するにあたって、ファンドを運営・管理する運用管理会社を米国 (デラウエア州) に設立。

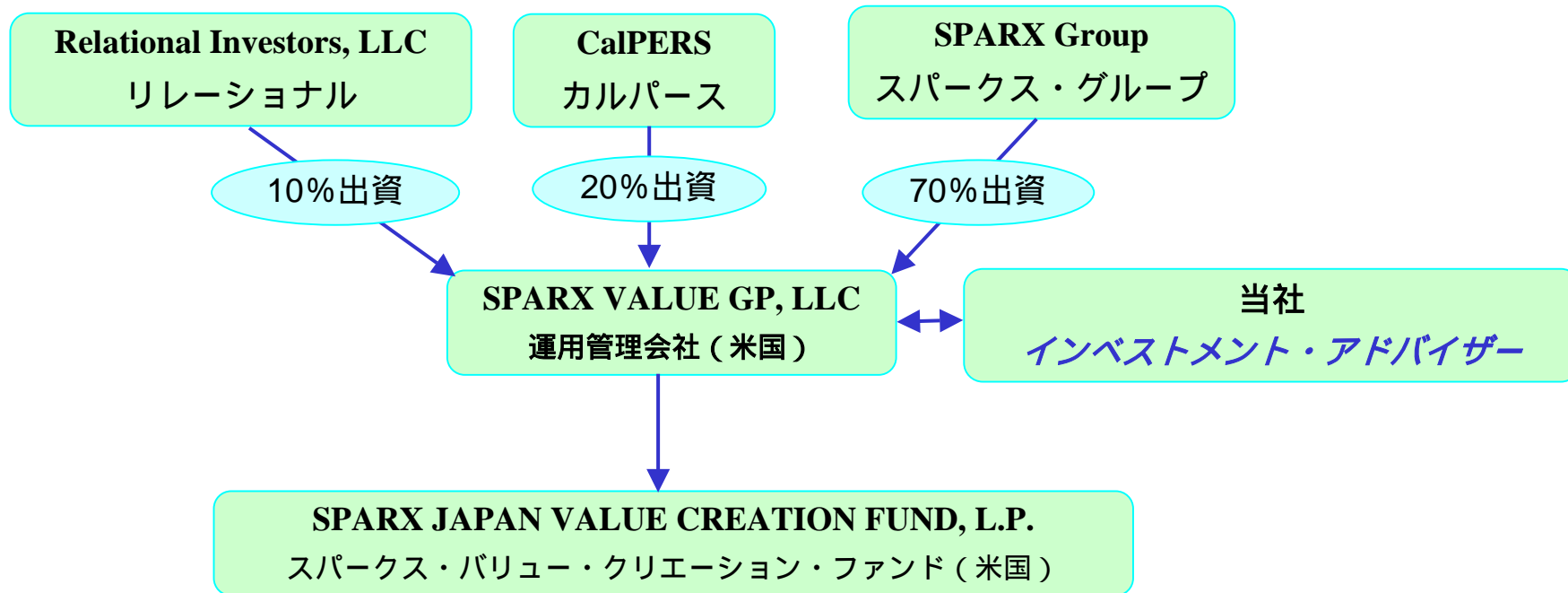
同会社設立に際して、スパークス・グループ70%、カルパース20%、リレーショナル10%の比率で出資することに合意した。

### ▶ **投資顧問一任契約**

本ファンドの運用において、当社が単独で投資一任アドバイザーとしての役割を努めることを正式に決定した。

## - バリュース・クリエーション投資戦略について(2/3) -

### ➡ バリュース・クリエーション投資のストラクチャーの概要について



## - バリュース・クリエーション投資戦略について(3/3) -

### ➡ バリュース・クリエーション投資戦略について

経営者に企業変革への強い意志があること。

|           | バリュース・クリエーション戦略  |
|-----------|------------------|
| 投資のコンセプト  | ・コーポレート・ガバナンス投資。 |
|           | ・企業価値の向上。        |
|           | ・経営陣と建設的な対話、協働。  |
| 投資の想定時間軸  | 2～3年             |
| 想定投資対象    | 中・大型株            |
|           | 上場株式のみ           |
| 対象株式の時価総額 | 約300億円～約2,000億円  |
| 想定株式保有    | 発行済み株式の一定比率を保有   |
| 想定組入れ銘柄数  | 5～20銘柄程度         |

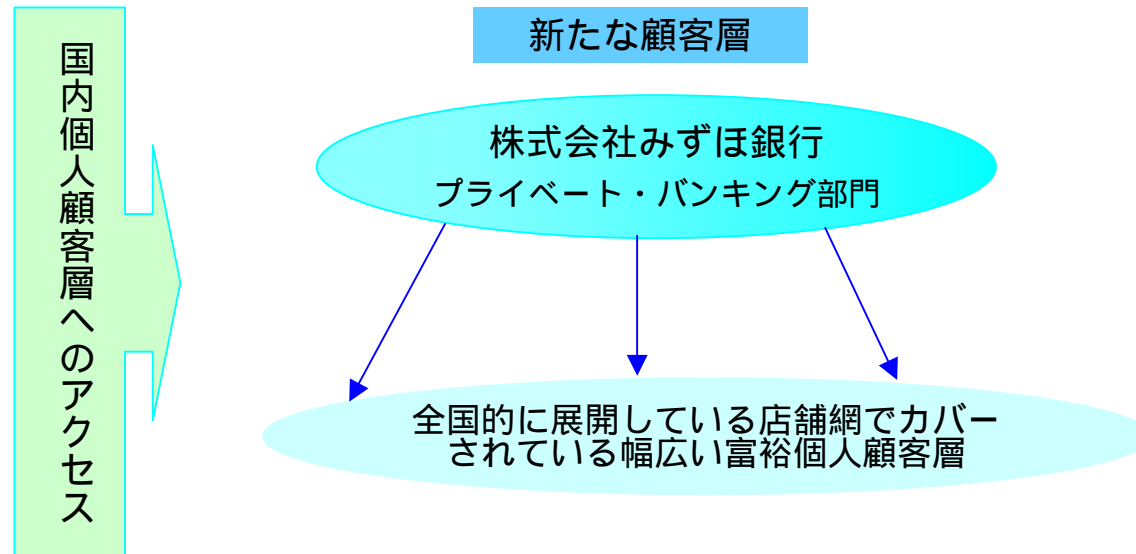
## - 投資信託委託業務（公募）を通じて -

➡ 販売会社：株式会社みずほ銀行

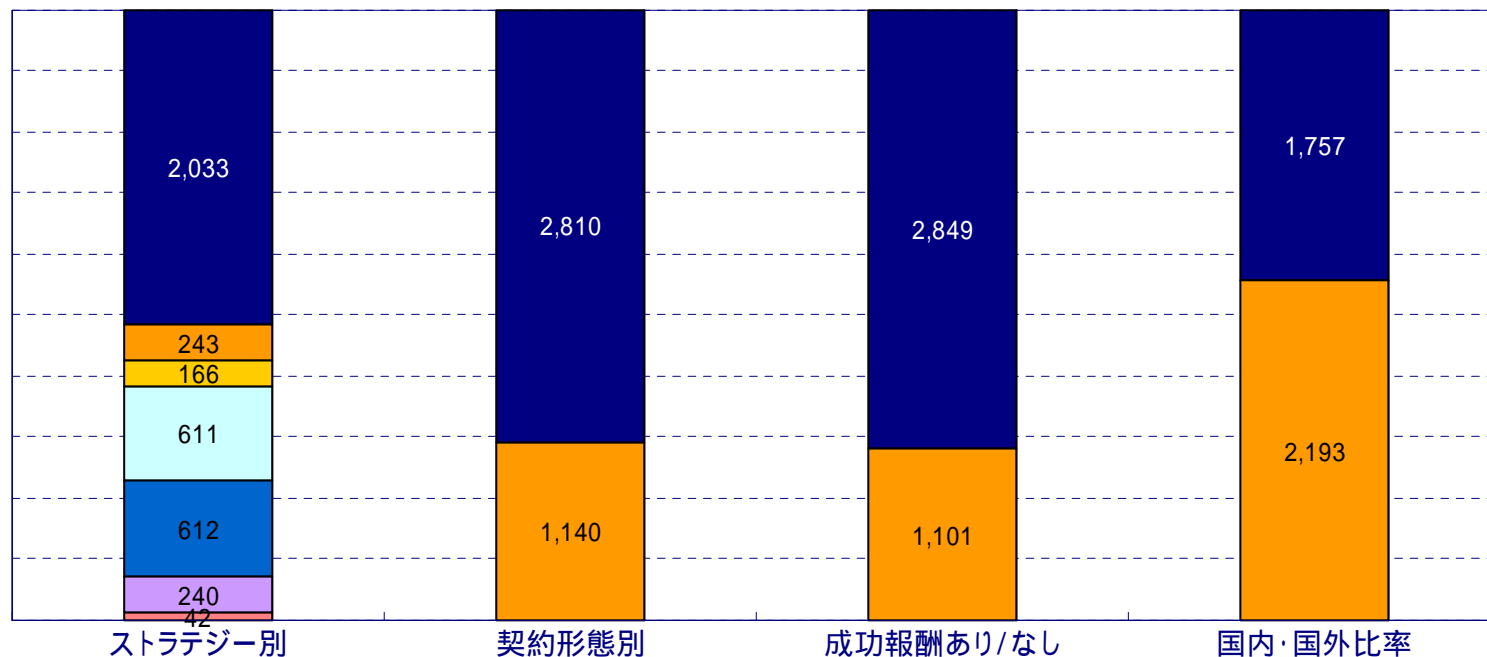
国内株式型（ロング・ショート型）：名称 スパークス・日本株・L&S

今回、大手銀行4大グループの一角をなす、（株）みずほ銀行を通じて、日本株式ロング・ショート型の国内公募型投資信託を販売するファンドを設定・運用。

現在、当社としては、最終投資家である個人顧客層へ提供される商品の主要パーツを目指すべく、模索中。



## 預かり資産分析 -2003年1月末預かり資産残高内訳（速報値）-



| 戦略別                |             | 契約形態別  |             | 成功報酬あり/なし    |             | 国内・国外比率 (顧客属性に基づく) |             |
|--------------------|-------------|--------|-------------|--------------|-------------|--------------------|-------------|
| 日本株式ロング・ショート戦略     | 2,033 51.5% | 投資顧問   | 2,810 71.1% | 成功報酬あり       | 2,849 72.1% | 国内                 | 1,757 44.5% |
| 日本株式集中投資戦略         | 243 6.1%    | 投資信託委託 | 1,140 28.9% | 成功報酬なし       | 1,101 27.9% | 国外                 | 2,193 55.5% |
| ファンド・オブ・ファンズ       | 166 4.2%    |        |             |              |             |                    |             |
| 日本株式一般投資戦略         | 611 15.5%   |        |             |              |             |                    |             |
| 日本株式中小型投資戦略        | 612 15.5%   |        |             |              |             |                    |             |
| バリュー・クリエーション投資戦略   | 240 6.1%    |        |             |              |             |                    |             |
| 未公開株式投資            | 42 1.1%     |        |             |              |             |                    |             |
| <b>合計 (単位: 億円)</b> |             |        |             | <b>3,951</b> |             |                    |             |

(注) 預かり資産残高の金額については、時価純資産額であり、表示単位未満は切捨てて表示している。また、上記の金額は、基準日時点で実際の運用に係る金額のみではなく、コミットメント・ベース等により契約上運用報酬の算定の対象となる金額がある場合は、これを含め表示している。

このレポートは、投資家への情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の有価証券の取引を推奨する目的、または特定の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。数値、情報については、正確性を期すべく、万全の配慮をしておりますが、一部内部資料に基づくものもあり、財務データに関しては未監査のものであるため、その正確性、完全性、情報や意見の妥当性等を保証するものでなく、当該データ、意見等を使用した結果についてもなんら補償するものではありません。また、ここに記載された内容が事前連絡なしに変更されることもあります。このレポートの著作権はスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。